

第4群（活動報告）

指定障害者支援施設における高齢化・重度化対策支援事業  
 ー知的障害者の高齢化・重度化を支えるためにー

○リハビリテーション支援センター 技師 佐々木真奈  
 川村謙吉, 片淵千明

キーワード: 知的障害者, 高齢化・重度化, 施設支援

I はじめに

わが国の高齢化は世界トップレベルで、障害者においても高齢化が顕著になっている。指定障害者支援施設でも、今後入所者が高齢化し、かつ、重度化していくことが懸念されている。そこで、宮城県の指定障害者支援施設における現状を把握し、施設で抱える課題に対し解決に向けた取組が行えるよう、支援方法を検討すること、また、施設での取組を全県に広めることにより、障害者支援施設の基盤整備の一環とすることを目的に事業を実施したので報告する。

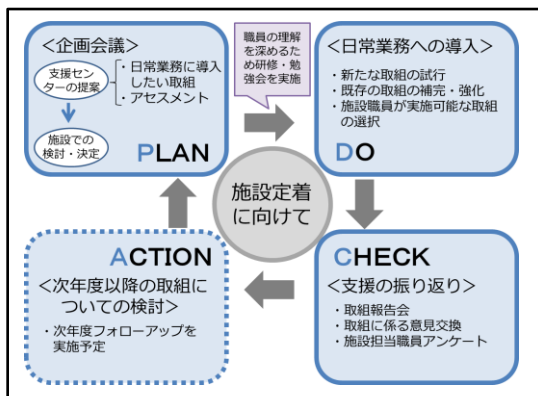
II 方法および活動内容

1. 県内の課題の明確化（指定障害者支援施設における高齢化・重度化に関する実態調査）

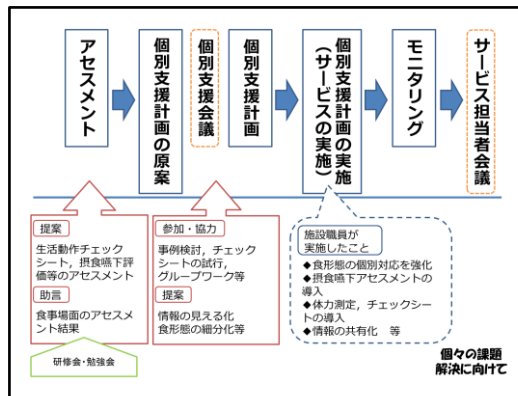
主に知的障害者が入所している障害者支援施設で、入所時に比べ食事や移動、排泄などの日常生活活動が低下し、介護の量・質が変化しつつあるとした課題が見られていた。また、9割以上の施設でリハビリテーション専門職の支援や助言が必要と感じているなどの現状を把握した。

2. 施設の課題解決のための取組（モデル施設支援およびフォローアップ事業）

施設で抱える具体的な日常生活上の課題を把握し、その上で課題解決に向けた取組を検討・支援を実施した。その際、施設の体制づくり（図1）と、事例のケアマネジメント（図2）、及び、施設が継続的かつ主体的に取り組むことを意識しながら会議や研修会、技術的な後方支援を実施した。（平成27年度：2施設、平成28年度：2施設）



【図1 施設体制づくり】



【図2 事例のケアマネジメントの流れ】

3. 全県への普及

(1) 報告書の作成・配布

実態調査およびモデル施設支援に係る報告書を作成し、施設等に配布した。

(2) 指定障害者支援施設における高齢化・重度化対策支援研修会

施設職員等に対し高齢知的障害者支援の先進的取組を学び、本県の知的施設における高齢化・重度化の現状と課題の共有や今後の支援の在り方について考える機会とすることを目的に、研修会を実施した。講師は独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園職員、他。参加者は障害者支援施設職員等で81名。

IV 考察

支援は、施設が主体的に取り組めるよう、「施設との協働作業を通じて施設が決定する」、「既存の取組を補完・強化する」、「施設で実施可能な取組を導入する」などを意識し、施設定着に向けてPDCAの流れを踏まえてすすめた。その結果、施設職員が利用者一人一人の状態を踏まえた介助が行え、その結果の振り返りを行うことができ、利用者の生活の質の向上につながるきっかけを体験してもらうことができた。

V おわりに

高齢知的障害者の生活を支えていくためには、生活の場である施設の職員が主体的に支援を行っていく必要がある。施設職員に対し、課題解決に対する専門的な答えを示すのではなく、ひとつの課題の解決方法を検討するプロセスを体験してもらうことで、新たな課題解決も施設職員自身で行えるようになり、利用者の生活の質の向上につながるのではないかと感じる。今後は、リハビリテーション支援センターの地域リハビリテーション推進強化事業にて、全県施設を対象とした施設支援事業を実施することを計画中である。